

竣工

創作・展示の場が生み出す刺激とかかわり

京都造形芸術大学の学生専用マンション「創染舎」に工房兼ギャラリーが完成

今年1月末に京都造形芸術大学の学生専用マンション「創染舎」(京都市左京区)が完成。その1階に、入居者専用の工房兼ギャラリーが5月18日、オープンした。

染色業を営む建て主の工場跡地に、鉄筋コンクリート造3階建て26戸の住まいと57㎡の創作・展示の場が実現した。不動産業者の(株)フラットエージェンシーが大学側に提案し、角直弘氏(設計組織Den Nen Architecture)が設計。今年の2月末から入居希望者に対し、大学内で抽選が行われ、学生が順次入居。4月から新入生も加わり、現在は満室となっている。大学内の工房は利用時間に制限があり、また、一般の



左|外観 右|工房兼ギャラリー。2階の高さまである中庭の壁は映像用スクリーンにもなる

ギャラリーは使用料が高いため、この工房兼ギャラリーは学生に歓迎されている。

また、近年ワンルームマンションでは防犯などハード面の安全管理が重視されるが、同社ではむしろ学生の引きこもりや親との音信不通などの問題が数多く生じていることを危惧する。

この工房兼ギャラリーでは学生同士のかかわりを深めることで、ソフト面の安心・安全を目指す考えだ。

工房兼ギャラリーは学生主体で管理・企画していく予定。学年や学科の違う学生たちがひとつ屋根の下、どんな芸術を開花させるのか期待したい。

